

アサーティブジャパンは、アサーティブネスを広く人々に知っていただく活動の一環として、「アサーティブネスの伝え手（トレーナー）を育成する」という大きなミッションを持っています。これまでアサーティブジャパンのトレーナー養成講座を修了された方々は、北海道から沖縄まで全国各地のそれぞれの現場でアサーティブネスを伝える活動を展開しています。

今回の「トレーナーへの道」では埼玉県鴻巣市在住のトレーナー、鈴木博夫さんをご紹介します。鈴木さんは会社の代表取締役。組織の風土改革を進めていくなかで、真摯にご自身がアサーティブであることを実践し続けている方です。一方で、アサーティブジャパンの講座へもアシスタントとして積極的に参加し、惜しげないサポートをしてくれる心強い仲間でもあります。そんな鈴木さんに、どんなことに苦労し、どんなことを大切に日々を過ごしているのか、ざっくばらんに語っていただきました。

## 組織のなかで忘れがちな “お互いへの共感” そこに道をつけるのが アサーティブネスではないか



アサーティブジャパントレーナー会員  
鈴木博夫さん（埼玉県・鴻巣市）

プロフィール：1965年、埼玉生まれ。2006年東京 トレーナー養成講座修了。大学院電気工学専攻修了後、半導体装置メーカーにてソフトウェア開発および新製品開発業務にかかわる。1997年より株式会社興電舎 代表取締役として、ファクトリーオートメーション装置の開発製造に従事。  
<http://www.kodensha.com/>

### アサーティブネスに出会って

私は15年前、30歳のときに父の病のため、サラリーマンの立場から祖父の興した会社を経営することになりました。マネジメントの経験などまったくなかった自分にとって、代表者の仕事は霧の中を歩くようなもの。特に年上の方とのコミュニケーションに悩みをもちました。私が立場のもつ力で相手を



コントロールしようとしていたからでしょうか、何も知らない新人の言葉に本当の意味で耳を貸してはくれませんでした。そんな中「アサーティブネス」